三星刃物株式会社

岐阜県関市

顧客ニーズに基づく商品開発で贈答市場開拓 ロボットシステム導入でデジタル人材育成

創業明治6年。刃物産地岐阜県関市に本社を構える刃物メーカー。刃物の製造販売、輸出入で拡大してきたがOEM生産では厳しい経営状況が続いていた。そこで「一生モノの包丁」をコンセプトに機能性・審美性を両立する革新的な商品を開発し、家庭向け自社ブランド「和　NAGOMI」の新規事業を立ちあげた。顧客ニーズに基づいた贈答市場開拓やアフターサービスに力を入れ、国内市場のみならず海外市場への参入を視野に入れている。

●所在地	岐阜県関市下有知5178番地
●電話／FAX	0575-22-2345／0575-22-2347
●URL	https://nagomi.mitsuboshi-cutlery.com/
●代表者	代表取締役　社長　渡邉　隆久

●設立	1947年
●資本金	1,000万円
●従業員数	40人

モニター調査と購買行動分析で顧客ニーズを反映した商品開発

モニター調査を重ね、本当の料理好きが欲しがる包丁を開発。顧客の購買履歴の分析により、想定していた料理好き生活者の道具へのこだわりニーズだけでなく、贈答品ニーズの高まりに着目した。そこで、大手広告代理店との協業によりブランドロゴ・箱のデザインを全面的に刷新、新たに箱・テーマ別のギフトラッピング・のし・袋を製作した。また、核となる販路の一つである自社ECサイトにおいて贈答用ラッピングに対応した機能を拡充、顧客ニーズに対応することで付加価値向上を図っている。

利用シーンから選べるギフトラッピング

ロボットシステム導入と多能工化で残業時間を75%削減を目指す

熟練技能者3名が若手技能者6名への教育を行っており、仕上り具合の確認・微調整しながら製造作業を進めている。当該作業に膨大な時間を要していたことが課題であった。最も時間を要する製品ハンドル部の研削・研磨工程で作業手順を8段階に細分化、段階的にロボットシステムを導入することにより自動化・省力化を実現した。さらに若手技能者の多能工化で作業の平準化を図り、一人あたりの生産性を向上、毎月40時間以上発生していた残業時間を5時間以内に削減して働き方の改革を目指している。

ロボットシステムによる精細な研磨作業

ロボットシステム導入にともなう社内デジタル人材の育成

ロボットシステム導入を契機として、デジタル作業を担える人材を育成する必要があった。具体的には、研削・研磨工程で最適な加工条件を導出するためには細かな補正が必要で、ロボットを操作するためのティーチングプログラム（教示作業）の修正などソフト面とロボットアームや刃物把持治具などのハード面の知識を習得する必要があった。そこでロボットシステムインテグレータ協力のもと、現場での実作業を通じてハード面・ソフト面の知識を高める教育を行い、社内デジタル人材を育成した。

教示作業で細やかな補正を行う